

救急車の走行性確保へ

前田道路、北海道の
国道橋梁部段差補修

前田道路は、北海道釧路市と網走市を結ぶ国道391号（弟子屈町）で救急車の安全な走行性を確保するため、橋梁部の段差補修を行った。北海道科学工学部都市環境学科の亀山修一教授が提唱する「いのちの道」プロジェクトの一環。同社は緊急時の走行を妨げる路面損傷を解消することで「地方部と都市部の救急医療格差の是正の一助になれば」としている。

段差補修の施工状況（前田道路提供）



北海道は救急救命センター1施設がカバーする面積は全国平均の約5倍もあり、市町村をまたぐ長距離搬送も珍しくないという。

救急搬送時には舗装に起因する振動が患者に悪影響を与えるため、損傷箇所では減速して運転する必要がある。

補修工事は北海道開発局釧路開発建設部弟子屈道路事務所管内の国道391号磯分内跨線橋（弟子屈町熊牛）で10月18日に実施。橋梁ジョイント部に発生した段差を施工性と耐久性に優れた速硬型ポリマーセメント系の常温補修材で補修した。今後は冬季の積雪や雪解け、除雪の影響など長期間の走行安全性を検証していく考えだ。

